

報 告 書

開催日時	平成 26 年 5 月 12 日（月）午後 7 時 00 分～ 8 時 30 分		
開催場所	竹駒定住促進センター		
出席議員	挨拶 及川 修一班長（教育民生常任委員会委員長）		
	司会進行	大坪 涼子	
	報告者	及川 修一	
	記録者	鶴浦 昌也	
	議員	大坂 俊、松田 信之、清水 幸男	
参加人数	市民 14 人、市職員 2 人、岩手日報記者 1 人、東海新報記者 1 人		
主な要望 ・ 提言等	<p>1. 仮設住宅に住んでいる高齢者が自宅を自力再建できず災害公営住宅に入居する場合、市内では鉄筋コンクリートの住宅が計画されているが、戸建ての住宅を整備してもらえないか。戸建て希望が多くあるのになぜか。</p> <p>2. 市の復興計画にメガソーラーの整備があったと思うが、どういう経緯で計画され、現状はどうか。</p> <p>3. J R 大船渡線の鉄路復旧策について、市議会はどのように取り組んでいるのか。</p> <p>4. 高台移転事業として、竹駒地区では 2 カ所で進められているが、市内でポツポツと計画されている。高齢者に「便利」と「安全」のどちらを重視するか聞くと「便利」と答える。高台にポツポツと住宅を整備すると、買い物に困るほか孤立してしまうのではないか。</p> <p>5. 津波注意報や津波警報、大津波警報の意味をもっと徹底して周知する必要があるのではないか。津波注意報は 1 メートル以下、津波警報は 1～3 メートル、大津波警報は 3 メートル以上とされており、その区別をはっきりと周知すべき。これまで、市は注意報が出ると「逃げなさい」と一所懸命呼び掛けてきたが、解除されるまでに 1 日かかることもあった。結局、津波が来ないことがほとんど。これらの経験から今回の震災時も逃げなかった人が多かった。これまで、注意報が出ただけで「逃げろ、逃げろ」と呼び掛けてきたことがオオカミ少年になってしまった。大津波警報が出されたときに「逃げろ」でいいのではないか。</p> <p>6. 現在、堤防を整備しているが、津波が越えない保証はない。その場合、川沿いに津波がのぼっていくことが考えられる。というのも、高田地区がかさ上げされて遊水池がなくなることから、今回の震災時よりも</p>		

	<p>矢作や竹駒、横田の多くの地域が浸水するのではないかと心配される。</p> <p>7. 竹駒地区は水が大きな問題となっている。気仙川は堤防が災害復旧で修理されているが、遊水池となっていた十日市場地域にスーパーなどが整備され、農地転法によって埋め立てられている。昨年7月の豪雨でもスーパーが浸水した。常に水が出る地域で、最近では山の手が造成され、高速道路が整備されたことにより一気に水が出てくるようになった。まちづくりと合わせ、水の監視も必要ではないか。</p> <p>8. 国道から未来商店街までの砂利道を舗装してほしい。</p> <p>9. 竹駒神社入口にある「世界大遺跡玉山霊域」の塔が震災により被災したが、あのままの形で保存できないか。これまで支援していただいている神奈川県逗子市の関係者が周辺に災害の記念碑を建立したい意向にあり、それと合わせて災害の記念物として残してもらえないか。</p> <p>10. 少子化により子どもは宝と思っているが、震災による子どもたちの心のケアや津波の恐ろしさを伝えていく手立てはどうなっているのか。</p>
<p>所 感</p>	<p>【及川 修一】</p> <p>竹駒地区は仮設本設あわせて店舗が密集しているが、十日市場地区の水処理に対する不安など、以前にも寄せられた意見に対する答えが十分にできなかった。</p> <p>玉山入口の塔の保存、JRの問題、住宅再建の在り方など、活発な懇談会となった。</p> <p>【大坪 涼子】</p> <p>今回の大津波で気仙川の遡上で大きな被害を受けた竹駒町では、津波だけではなく、大雨による雨水対策も考える必要性を思った。また、地震津波の周知方法のあり方について、警報、注意報等は市民に対して徹底して伝えるべきと防災対策の取り組みにも力を入れていくことが大事と思った。</p> <p>【鵜浦 昌也】</p> <p>質問の中には、議会内で機会あるごとに議論してきた内容であるにもかかわらず、「これまでに議会で話し合ったことがあるか」といった指摘があった。議会での議論の内容が市民に周知されていないことを痛感したほか、治水対策や玉山霊域の塔保存に向けた要望などもあり、有意義な懇談会だった。</p> <p>【大坂 俊】</p> <p>住宅自力再建及び仮設店舗での営業等により、急速に市街地化が進んでいる地区のため、安全か便利かの疑問を投げかける意見がでた。</p> <p>高田町における、商工会を中心とした新市街地構想がさらに時間のか</p>

かる状況となっており、交通、雨水対策など、早急な対応が迫られる地区であると感じた。

【松田 信之】

農地転用などによる造成工事が多くみられ、竹駒地区全体の問題として、日常的な雨水や洪水時などの時の対策が求められていると思われる。懇談を通じ参加していただいた方々から、多くの提案と提言を頂いた報告会であった。

【清水 幸男】

竹駒地区の懇談では、集団移転や公営住宅等の設置は、安全第一が基本であるが、生活の利便性も重視され求められているとのことである。

地域は、地理的に気仙川と面している関係もあり、雨水対策への関心が高い地域で、特にも、近年の復興に関する地区の環境変化が著しく、以前にも増して雨水対策が求められるとの事である。

震災以後の津波や洪水対応等注意報の周知のあり方も話され、防災に関し、環境変化に応じた検討の必要性を感じた。

議会広聴広報特別委員会

広聴小委員会小委員長 松田 信之 殿

平成26年6月6日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第10条第1項の規定により提出します。

平成26年度議会報告会教民班

班長 及川 修一 印